

第 1 回京都府教育振興プラン検討会議での議論の概要

H21.12.15

1 . 現状認識について

子どもの現状

プラス面

- ・ クリエイティブで情熱に溢れている。
- ・ 今の若者の方が人権意識が高い。

マイナス面

- ・ 大学生に学ぶ意欲がほとんど見られない。
- ・ いじめやトラブルに敏感で常に周囲にあわせなければならない。
- ・ 将来の展望が持ちにくい。
- ・ ほとんど読書をしない、テレビの視聴時間が長い。

学校の現状

- ・ 校長のリーダーシップや教員同士のチームワーク、保護者や地域の人々やボランティアの協力等のもと、課題解決に向けた様々な努力がなされている学校があり、その成果をその他の学校にどう広げていくかが大きな課題である。
- ・ 府内の小学校の現状は概ね良好であるが、中学校になると途端に課題が多くなる。

地域の現状

- ・ 土曜日などに子どもが集まれる場所を地域で設けている。
親との関わりを上手く持てない子どもたちが、大人に甘えたくて集まってくる。

大人の現状

- ・ 高校や大学への進学が普通のことになっており、子どもに学ばせたいというモチベーションが弱くなってきている。
- ・ P T A等の活動が熱心に行われているが、一方で以前よりも子どもの問題を学校に押しつける親が増えている。

2 . 今後の検討の視点について

「京都府の教育の基本理念」の検討に向けて

- ・ 自分をよく知らないから職業選択ができない。自分自身をよく理解させることを考える。
- ・ 京都人であること、この地域、この家族の中で生まれ育ったことなど、日本人が古くから持つ帰属意識の中から、自分の責務や可能性を見いださせることを考える。
- ・ 子どもたちに夢を持たせられるような教育を考える。
- ・ 強くしなやかな心、挫折を乗り越えるたくましさなどを身に付けさせることを考える。
- ・ 土の感触や土の匂いなどを人間の五感で感じさせるなど、根幹的な生きる力をもっと大切にする子どもを育てることを考える。
- ・ 生涯にわたって学び続ける人間を育成することを考える。

「実現に向けた施策推進の視点と方向性」の検討に向けて

- ・ 地域に根ざした教育を目指して、コミュニティの個性や学校の個性を活かす取組を考える。
- ・ 教育基本法の改正を踏まえ、学校と家庭と地域との連携などを重点的に考える。
- ・ インターンシップ・職業体験の取組など、社会のしくみがよく分かる取組を考える。
- ・ 具体的に家庭でコミュニケーションを取るための取組や、社会とのコミュニケーションを取らせる取組を考える。
- ・ 子どもたちが高い可能性を持っていることを前提に、子どもが持っている課題をどうクリアしていくかを考える。
- ・ 誰もが一律に国語や数学をできるようになる必要はなく、植物や動物を育てることがうまい子どもはその力をというように、子どもの力を尊重して伸ばすことを考える。
- ・ 帰属意識の基盤となるものを再発見するために、例えば人類最高の英知である古典を学ばせる。
- ・ 心の教育と学力をつける教育をバランスよく行っていくことを考える。
- ・ 今の子どもは「これから親になるもの」として、子どもの教育を考える。
- ・ 保護者に対して、じっくり話を聞き、気持ちを分かってあげる取組を考える。